

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-312854

(P2005-312854A)

(43) 公開日 平成17年11月10日(2005. 11. 10)

(51) Int. Cl.⁷

A43B 3/12

A43B 3/10

A43B 23/02

F I

A43B 3/12

A43B 3/12

A43B 3/10

A43B 23/02 1 O 7

テーマコード (参考)

4 F O 5 O

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2004-160281 (P2004-160281)

(22) 出願日 平成16年4月28日 (2004. 4. 28)

(71) 出願人 500086216

ぼたん有限会社

千葉県佐倉市表町 1 丁目 6 番地 3 ラフィネ

佐倉 4 O 6

(72) 発明者 久松 篤子

千葉県佐倉市表町 1 丁目 6 番地 3 ラフィネ

佐倉 4 O 6

F ターム (参考) 4F050 AA11 AA22 BA03 BA31 BD07

BD08 BD09 HA01 HA05 HA18

HA20 HA55

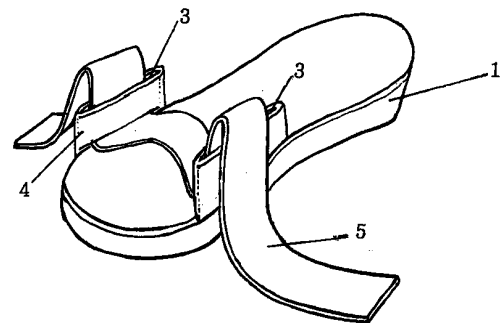
(54) 【発明の名称】 甲皮となるストラップを着脱し、簡便容易に履き口を調節できるスリッパ底部又はサンダル台

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】スリッパやサンダルの甲皮の履きやすいが脱げやすい履き口を簡便容易に調節して履用者の足に密着させ、かつ十分な緊締力を保持できるようにし、甲皮となるストラップの着脱も可能として、スリッパやサンダルの履用範囲を広げること。

【解決手段】スリッパ底部やサンダル台表敷乃至中敷の周縁部固着のバンド片をスリッパ底部やサンダル台の長径それぞれの中心方向に折り返すよう装置した挿通孔を両側対側に数か所設けて装着し、スリッパ底部やサンダル台の表敷乃至中敷周縁部両側対側の挿通孔にストラップの両端をそれぞれ挿通して、スリッパ底部やサンダル台のそれぞれ周縁部の両側対側において折り返し、該ストラップの両端を、当該スリッパ底部又は当該サンダル台それぞれの面上において結び結合し、面ファスナー等で係止し留める。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

スリッパ底部表敷乃至中敷の周縁部もしくはその周縁部固着のバンド片のスリッパ底部表敷乃至中敷周縁部、又はサンダル台表敷乃至中敷の周縁部もしくはその周縁部固着のバンド片のサンダル台表敷乃至中敷周縁部のそれぞれに、当該スリッパ底部の長径又は当該サンダル台の長径それぞれの中心方向に折り返せるよう装置した挿通孔を両側対側に数か所設けて装着し、当該スリッパ底部又は当該サンダル台の表敷乃至中敷周縁部両側対側の該挿通孔にストラップの両端を挿通し、当該スリッパ底部又は当該サンダル台のそれぞれ周縁部の両側対側において折り返し、該ストラップの両端を、当該スリッパ底部又は当該サンダル台それぞれの面上において結び結合したり、面ファスナー等で係止し留めることにより、該ストラップは、当該スリッパ底部表敷乃至中敷周縁部両側対側又は当該サンダル台表敷乃至中敷周縁部両側対側のそれぞれにおいて折り返す甲皮を形成しかつ、このような折り返しによって甲皮を形成する該ストラップと当該スリッパ底部又は当該サンダル台それぞれとの間で、履用者の足をはさむ空隙ないし間隙を複数有する甲皮を形成する該ストラップを着脱できることを特徴とするスリッパ底部又はサンダル台

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

スリッパ又はサンダルの甲皮を、履用者が必要に応じ素材を選び簡便容易に履き口を調節着脱できる技術である。

【背景技術】

【0002】

スリッパ又はサンダルの甲皮は履き口を大きくして固着しているため、履きやすいがその反面履き口を簡便容易に調節したり、甲皮を着脱することはできなかった。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

従来、スリッパやサンダルの甲皮は固着して、履きやすいが脱げやすいという両立しない欠点があった。甲皮となるストラップの着脱も容易ではなかった。スリッパ及びサンダルの利用目的は履き心地の良さと簡易な履きやすさにある。スリッパ及びミュール等の後部の開いたサンダルには簡易な履きやすさと圧迫感の少ない履き心地の良さがあるが、他面履用時にはスリッパ及びサンダル後部において、履用者の足が浮き上がりスリッパ及びサンダルが脱げやすい。そのためスリッパ及びミュール等の後部の開いたサンダルは、活動時の履用特に長距離の歩行時には履用者のアキレス腱や筋肉にスリッパ及びサンダルを足に保持する為の余分な負担がかかり活動時の履用には適さない。したがってスリッパ及び特に後部の開いたサンダルは、長距離時などにはあまり履用されず、その利用範囲は限られていた。

【0004】

スリッパ及びサンダルにおいて、履用者の必要に応じてストラップが着脱できればその利用範囲を広げることができるが、ストラップ着脱の操作自体が簡便でなければ締具としてのストラップを着脱させる意味がない。また締具の着脱を可能としても、締具装着時に履用者に適当な緊縛感を提供できなければストラップを締具として利用する意味がない。

【0005】

スリッパ及び後部の開いたサンダルに、ストラップを締具として固着させ脱げないようにするときには、スリッパ及びサンダル後部の開放感が損なわれるという欠点がある。ストラップの着脱を可能とする場合でも、ストラップの着脱の操作自体が容易でしかもストラップ装着時には、履用者に十分な緊縛感を提供できるものでなければストラップ着脱の意味をなさず、スリッパ及びサンダルの利用範囲を実質的に広げることにはできない。本発明は、スリッパ底部又はサンダル台に簡便容易にストラップを着脱できる装置を設け、当該装置により締具としてストラップを、着脱できるようにした他、ストラップ装着時には

十分な緊縛感とフィット感を履用者に提供できるようにしたものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、上記課題を解決するため、スリッパ底部表敷乃至中敷の周縁部もしくはその周縁部固着のバンド片のスリッパ底部表敷乃至中敷周縁部、又はサンダル台表敷乃至中敷周縁部もしくはその周縁部固着のバンド片のサンダル台表敷乃至中敷周縁部のそれぞれに、当該スリッパ底部の長径又は当該サンダル台長径それぞれの中心方向に折り返せるよう装置した挿通孔を両側対側に数か所設けて装着して、当該スリッパ底部又は当該サンダル台の表敷乃至中敷周縁部両側対側の該挿通孔に、ストラップの両端を挿通し、当該スリッパ底部又は当該サンダル台のそれぞれ周縁部の両側対側において折り返し、該ストラップの両端を、当該スリッパ底部又は当該サンダル台それぞれにおいて折り返す甲皮を形成し

10

かつこのような折り返しによって甲皮を形成する該ストラップと当該スリッパ底部又は当該サンダル台それぞれとの間で、履用者の足をはさむ空隙ないし間隙を複数有する甲皮を形成する該ストラップを着脱できる。該ストラップを甲皮として利用できるほか甲皮に緊締力を付与できる。

【発明の効果】

【0007】

本発明により、履用者はスリッパ及びサンダルの甲皮を必要に応じ簡便容易に着脱できる。すなわち履用者が、スリッパ底部表敷乃至中敷の周縁部もしくはその周縁部固着のバンド片のスリッパ底部表敷乃至中敷周縁部、又はサンダル台表敷乃至中敷の周縁部もしくはその周縁部固着バンド片のサンダル台表敷乃至中敷周縁部それぞれに、当該スリッパ底部の長径又は当該サンダル台の長径それぞれの中心方向に折り返せるように挿通孔を両側対側に装着したスリッパ底部又はサンダル台において、スリッパ底部又はサンダル台の両側対側の挿通孔を挿通したストラップの両端を牽引しながら結び結合したり面ファスナー等で係止し留めるときは、両側対側の挿通孔を挿通したストラップは、かかるスリッパ底部表敷乃至中敷周縁部両側対側又はサンダル台表敷乃至中敷周縁部両側対側のそれぞれにおいて折り返す甲皮を形成してかかる挿通孔を装着したスリッパ底部又はサンダル台を吊り、スリッパ底部又はサンダル台の甲皮として利用できるのみならず、かかるスリッパ底部又はサンダル台とストラップの間にはさまれた履用者の足は可及的にこれらに密着し、かつ甲皮の履き口を簡便容易に調節して履用者の足にフィットさせることができる。

20

30

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

スリッパ底部又はサンダル台それぞれの表敷乃至中敷周縁部の爪先部から踏まず部近傍の両側対側それぞれ2か所に、挿通したストラップが当該スリッパ底部又は当該サンダル台の長径中心方向それぞれに折り返すように挿通孔を設け装着するときは、甲皮としての緊締力を十分に得られると共に甲皮となるストラップの着脱を必要最小限度に簡便容易に行うことができる。

【実施例】

【0009】

本発明を図示実施例に従って説明する。スリッパ底部1又はサンダル台2は、通常のスリッパ底部又はサンダル台と同じ構成であり本底、中敷、表敷、ヒールなどより成る。スリッパ底部又はサンダル台は、布、皮革、木、コルク、合成ゴム、合成樹脂、ウレタンソール、スポンジソール、プラスチックソールなどの材料を用いて適宜接着縫着したりなどして成型し作ることができる。

40

スリッパ底部1又はサンダル台2それぞれの表敷乃至中敷周縁部両側対側もしくはその周縁部それぞれに固着のバンド片の表敷乃至中敷周縁部に、挿通したストラップがスリッパ底部1又はサンダル台2の長径それぞれの中心方向に折り返すように装置し装着した挿通孔3は、スリッパ底部1又はサンダル台2の表敷乃至中敷同様の素材すなわち綿、皮革、合成樹脂等の素材より構成され、挿通孔3はこれら部材の縫着や接着により設けることができる。尚スリッパ底部1又はサンダル台2の表敷乃至中敷周縁部固着のバンド片4に

50

おいても、その表敷乃至中敷周縁部に設ける挿通孔 3 は、表敷乃至中敷と同様の素材から構成されるバンド片 4 に、これら部材と同様の部材の縫着や接着により装着することができる。

ストラップ 5 は、布地、合成皮革、天然皮革、合成繊維、天然繊維、合成樹脂等の材料でつくられる。ストラップ 5 の形状はスリッパ底部 1 やサンダル台 2 に装着した挿通孔 3 に挿通できる形状であればよく、長方形、紐、螺旋状等の造形を自由に採用することができる。ストラップ 5 は、スリッパ底部 1 の表敷乃至中敷周縁部もしくはその周縁部固着のバンド片 4 のスリッパ底部表敷乃至中敷周縁部、又はサンダル台 2 の表敷乃至中敷周縁部もしくはその周縁部固着バンド片 4 のサンダル台表敷乃至中敷周縁部のそれぞれ両側対側に装着された挿通孔 3 に挿通させて、スリッパ底部 1 又はサンダル台 2 に装着する。

10

【産業上の利用可能性】

【0010】

通常、スリッパやサンダル等の履物の甲皮はスリッパ底部やサンダル台に固着し、履き口の調整も限られているが、本発明は甲皮となるストラップの着脱を容易にして、スリッパやサンダルの履物としての利便性ならびに装飾効果を履用者本位に向上させ、これら簡易履物の利用価値及び効果を高めてファッション性を演出することができるから、スリッパやサンダルの利用範囲を著しく増大させることができる。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図 1】 本発明のストラップの一例を挿通した実施例を示した斜視図である。

20

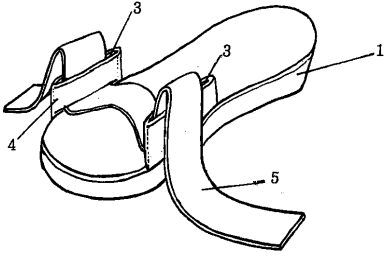
【図 2】 本発明のストラップの一例を挿通した実施例を示した斜視図である。

【符号の説明】

【0012】

- 1 はスリッパ底部、
- 2 はサンダル台、
- 3 は挿通孔、
- 4 はバンド片、
- 5 はストラップの例示である。

【 図 1 】



【 図 2 】

